

ベトナム語を母語とする日本語学習者における 漢越語知識の利用ストラテジーの 活用についての観察

Truong Thuy Lan

学位取得年月：平成19年3月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】漢越語、漢越音、誤答、指導法

【要旨】

本研究では、ベトナム人の日本語学習の漢越語知識の利用ストラテジーの活用を観察した結果、2年生でも4年生でもかなり活用されるということが分かった。活用上で生じた誤答に関しては、日本語と漢越語を置き換えるときの誤答が、2年生でも4年生でも最も高い比率で起きたという結果が得られた。他には、同音異義の漢越音（漢越語の読み方）、漢越音からの連想による誤答も見られた。更に、4年生では一対象語についての誤答の種類が多いという現象が見られた。得られた結果より、現在の漢越語の指導法では不十分であり、意味の相異など含めた更なる徹底的な説明をすること、指導を4高学年生においても行う必要があることを提案する。

(ちゅおん とうい らん)

ピア・レスポンスは推敲の着眼点と推敲のリソース をどのように変化させるか —「書くこと」の指導に関する実践的研究—

徳間 望

学位取得年月：平成19年3月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】ピア・レスポンス、推敲の着眼点、推敲のリソース、自立的な推敲技能

【要旨】

本研究では、「書くこと」における学習者の自立的な推敲技能の向上を目指して、ピア・レスポンスを用いた推敲指導を行った。教師のチェックがない時、学習者はどこに目を付け（推敲の着眼点）、何を手がかりに（推敲のリソース）推敲を行うかを3ヶ月間追跡した。その結果、①推敲の着眼点には時期的変化が見られない、②推敲の着眼点の多さは直ちに評価と結びつくものではない、③推敲の着眼点拡大のためには、自発的に意見を求める態度が必要である、④推敲のリソースは4回目になって多様性が見られたことがわかった。ピア・レスポンスにはある程度の習熟期間が必要であるが、継続的に行うことによって、学習者の自立的な推敲を促していく可能性があることが示唆された。

(とくま のぞみ)